

## 第2回伊那市地方創生総合戦略審議会 会議録

開催日	平成27年5月29日(金)			
開催時間	開 会	午前10時00分	閉 会	午前12時00分
開催場所	市役所 501・502会議室			
委員出席者	上伊那森林組合	伊藤 清		
	伊那市金融団	酒井 光一		
	伊那商工会議所	唐木 和世		
	伊那市議会	伊藤 泰雄		
	旧伊那市区区域長会	赤羽 仁		
	高遠町地区区長会	守屋 和俊		
	長谷地区区長会	池上 敏明		
	上伊那農業協同組合	矢島 洋子		
	伊那青年会議所	池上 裕平		
	長野県経営者協会上伊那支部	高嶋 厚		
	地域交通事業者	板山 準治		
	連合長野上伊那地域協議会	日比野 誠		
	伊那市社会福祉協議会	小嶋 早苗		
	伊那市保育園保護者会連合会	小澤 篤		
	公募	二瓶 裕史		
欠席者	伊那市教育委員会	松田 泰俊		
	中部PTA連合会	下島 英喜		
	伊那市観光協会	向山 知希		
	信州大学	林 靖人		
	伊那市女性人材バンク	唐澤 桂子		
委員以外の出席者	上伊那地方事務所地域政策課長	池田 隆義		
出席した事務局職員	総務部長	原 武志		
	人口増推進室長	飯島 智		
	人口増推進係長	伊藤 透		
	人口増推進係	宮川 可南子		
議 事	(1) 策定方針について (2) 地方創生人口ビジョン(素々案)について (3) アンケート調査の実施について (4) その他			

配布資料	資料1 伊那市地方創生人口ビジョン・総合戦略策定方針 資料2 地方創生人口ビジョン（素々案） 資料3 アンケート調査の概要
------	---

## 1 開会

(事務局) 皆さまこんにちは。お忙しい中ご出席いただきましてありがとうございます。時間になりましたので、開会のあいさつを唐木副会長にお願いしたいと思います。

(副会長) 皆さんこんにちは。今回戦略審議会の副会長ということで大役を仰せつかっております。伊那市がよくなるために、微力ではございますが一生懸命やらせていただきますのでみなさんよろしくお願ひいたします。それでは、ただいまより第2回伊那市地方創生総合戦略審議会を開催させていただきます。よろしくお願ひいたします。

(事務局) 本日の会議ですが、松田委員、向山委員、林委員、下島委員、唐澤委員、以上5名の皆さんがお仕事等の都合によりまして出席いただけないということでご連絡が入っております。それでは、本審議会の会長であります伊藤会長よりご挨拶をお願いいたします。

## 2 あいさつ

(会長) 改めましておはようございます。連日大変暑い日が続いております。委員の皆様には、熱中症等十分ご注意いただきたいと思ひます。また、これから梅雨ということでありますので、体調管理に十分ご注意をいただきたいと思ひます。そんな中で、第2回の伊那市地方創生総合戦略審議会を開催したところでございますけれども、お揃いの皆さまには、大変お忙しい中ご出席をいただきまして、ありがとうございます。前回の審議会では、地方創生人口ビジョンと総合戦略の概要につきまして、事務局から説明をいただいたところでございます。今回からは具体的に伊那市版の地方創生人口ビジョン、総合戦略についてのご検討をいただくということになると思ひます。委員の皆さまの活発なご意見とご協力をお願いしながら、簡単ではありますがご挨拶とさせていただきます。本日は大変にご苦労さまでございます。

(事務局) ありがとうございます。それでは早速協議入るわけでございますが、協議に入ります前に、今回、この総合戦略策定にあたりまして、様々な調査・分析が必要となります。現在、その調査にあたります業者につきまして、決定をしてやっております。本日その業者の皆さん、2人お越しになっておりますので、自己紹介を簡単にお願ひしたいと思います。

(コンサル) (挨拶)

(事務局) あらかじめ報道機関、それから本日傍聴の方、伊那市市議会委員の皆さん、傍聴に来ていただいておりますけれども、本日皆さんに協議していただきます資料の中に、伊那市の人口将来予測のデータが入っておりますが、伊那市全体のものにつきまして、各地区別のデータも実は準備してございます。あくまでも予測のデータになりま

すので、この予測のデータが各地区のほうに、今後報道等によりまして、結果などが不安や混乱を招いてはいけないということで、その地区別のデータにつきましては、割愛をさせていただいております。それから事務局のほうから、そのデータの分析などにつきまして、このあと報告させていただきますけれども、その説明の時間帯のみ退席をお願いしたいというように考えておりますので、なにとぞご理解いただいで進めてまいりたいと思います。よろしくお願ひいたします。それでは会長のほうで協議のほうをよろしくお願ひいたします。

### 3 協議事項

#### (1) 策定方針について

(会長) それではお手元の協議事項に沿って進めさせていただきます。最初にそれぞれ、事務局のほうで事前に資料等をお配りいただきました。それぞれ資料を読んでいただいでいると思いますが、改めて事務局からの説明をお願いしたいと思います。協議事項(1)の策定方針についてお願ひいたします。

(事務局) (策定方針について資料1に基づき事務局説明)

(会長) ありがとうございます。ただいま説明をいただきましたのが、策定の方針でございます。若干の手直しがあると思いますが、総合計画との整合化を図るということでございます。さらには9月の完成を目指すこと、国の示す政策4分野を参考にしながら、伊那市の独自のものをつくること、それから地区に重点を置いた分析をしていくこと、さらには、アンケート等をおこなっていくなどのことが政策として示されたわけでございます。さらには伊那市の総合戦略の4つのそれぞれのテーマを示したものであります。ご意見や質問等ございましたらお願ひしたいと思います。

(意見・質問なし)

(会長) 特にないようであれば、このような方針で進めていくということによろしいでしょうか。ご意見等無いようでございますので、こういったことで施策方針とさせていただきます。ということをお願ひをいたします。

#### (2) 地方創生人口ビジョン(素々案)について

(会長) それでは協議事項の(2)でございますが、地方創生人口ビジョンの素々案ということで事務局より説明をお願ひいたします。

(事務局) (資料2に基づき事務局説明)

(会長) ありがとうございます。ただいま地方創生人口ビジョンの素々案についてご説明をいただきました。かなりのボリュームであります。事前にお目通しをいただいでいると思いますので、ご質問等ございましたらお受けしたいと思いますがいかがでしょうか。

(委員) 32ページの基本的視点が3つあるのは非常にどれも重要だと思います。先ほど説

明にもありましたけれども、シティプロモーションで、内外への戦略的な広報が必要だということなのですから、どれだけ伊那市を住みやすくしてよいまちにしても、住んでいる人がそれを実感して伝える能力がないと、なかなか外に広がっていかないということがあると思います。最近も田舎暮らしで住みやすいところ全国1位になったのですが、今回この地方創生の審議会に入っているいろいろな方にお話を聞いてみて、子育てしているお母さんが、市民センターなどに行っているんですが、そこにいる保育士さんと話をしている中で、伊那市は全国で1番子育てしやすいところなのだよねという話になったときに、その保育士さんは市の職員ですが、どの辺が住みやすいのだろうね、箕輪や南箕輪などのほうがよっぽど住みやすいよねと言ってしまいうらしいです。せっかく伊那市の魅力を語れる場なのに語ってくれないということが現状なのかなというように思いました。だから、市の職員だけではなくて、普通の市民が、それぞれが伊那市のよいところを知って、外から来た人に、こんなによいところだと自然に語れるような環境づくりということで、とくに内外の内に、市内には住んでいる人に対して伊那市の魅力を戦略的に浸透して行って、それぞれの人が営業マン的に動いてくれるようなことを、この基本的視点のところ、何か市民の皆さんに情報を発信して、教育という言葉をつけると少し上からになってしまいますが、「していきます」ということが入るとよいと思います。

(会長) ありがとうございます。他に何かございますか。たしかに今住んでいる人が住んでいる良さを発信できなければ、当然人口増にはつながらないわけですから、そういった視点は必要だと思うのですが、いかがでしょうか。

(委員) 今の指摘は大変重要なことだと思います。私のところに、最近東京から移住してきた人がいまして、新しく家を買って、以前はハイテク関係の仕事をしていて、営業をしていたらしいのです。その方は、全国営業をしていて、長野県担当になったときに、長野県が非常によいところだと、したがって長野県に住みたいと、長野県ではどこがよいかといろいろ考えたら、長野でも松本でもなく伊那が非常に自然豊かであったということで、住んで丁度1年くらい経ちますが、そのような人たちを大事にする意識、つまり我々住人ですが、非常に伊那というところは、ある意味で保守的なのですね。とくに都市部の人、まちの人たちはどうか分かりませんが、私は美篤なのですが、美篤あたりですと、やはり自治会やいろいろありますし、いろいろ不利益があるわけですね。このようなものに対する、なかなかそのような新しい人が入ってきにくい状況なのです。意識して、その人に対して草刈鎌は電動のものを買いなさいなど、いろいろ親切に非常に努力して仲間に入ってくれる努力をしているわけだけれども、それでようやく我々の仲間に入ってきてくれます。ところが、周りをみていると、あの人はどのくらいできるのか、あの人はまたいなくなるのではないかと、というような意識が、結構言わなくてもあります。ですから、我々住民の中に、新しい人を受け入れると同時に、同化する、思いやりといいますか、親切などをおおいに意識してもたないと、定住ということがなかなか難しいのではないかと思います。やはり伊那はまだまだ意識的には、よそ者というような感じが抜けきらないところがあります。これをや

はり、意識変革をしていかないといけないのではないかと、今の話を聞きながら思いました。

(会長) ありがとうございます。大変貴重なご意見をいただいたと思います。他に何かございますか。

(委員) 7、8ページで合計特殊出生率は上がっているということですが、晩産・晩婚化傾向が出ているということで、ここではデータ化されているのですが、例えば第1子、第2子、第3子というようなかたちの出産年齢のデータ化みたいなことが必要なのかなと思います。それによって、それぞれの対策みたいなところ、第1子出産の壁、第2子、特に第3子の壁みたいなところの対策みたいなこともできるので、そういった部分のデータ化も、もしご検討できればどうかというように感じています。

(会長) ありがとうございます。最初の意見に戻りますけれども、市内に住んでいる人の意識改革もしていくのだということですが、それについてこの地方創生の中へどのようなかたちで謳っていけるかということは、どの様に考えていますか。

(事務局) まさに大変重要な指摘いただいているように感じます。私どもの部署で、移住相談が月平均で大体20件くらいあります。専門の集落支援員も兼ねて、トータルコーディネータをお願いしています。民間の方に入っていて、専門の方を配置しておりますが、そういった話を聞きますと、やはり、聞かされるのは外ばかりに目を向けがちなのですが、外から来た方からするととても新鮮な面があるということです。具体的に言いますと、例えば、都会では学校の敷地に入るだけでもとても大変なことが、田舎にくると自由に子どもたちが、休みの日や放課後に遊んでいたりと、声もかけたりもできるというようなことが、我々中にいるとそんなことは当たり前だと思うのですが、都会の方からすると、コミュニケーション形成上とても大事なことだというような話も伺っております。そのような意味で、受け皿となる受け入れ側の意識を調整していくということは、委員がおっしゃられたとおり大変重要な柱ですので、是非この中に、表記も加えていきたいというように思っております。加えて申し上げますと、プログラムでも定めております、こういった受け皿として、先進的な取り組みを各地域の中でも、他の地域に先んじてやっていただいて、リードしていただくという意味では、この田舎暮らしモデル地域という制度を設けて、財政的な支援もそうですが、コーディネータが地域に入って、一緒に都市の合流や地域課題の解決に向けたプログラムをまわしていくような取り組みもしております、今年度から新山地域がはじめております。そういった取り組みも踏まえつつ、その根底には今委員がおっしゃられたような、外向けばかりだけではなくて、地域の住民の意識を高める取り組み、その一つに昨年度は、生活改善ということでこの事例の簡素化もやっていたわけですが、そういった地道な取り組みを積み重ねていくということも非常に重要だと思いますので、是非この中に入れさせていただきたく考えております。

(会長) ということで検討していただけるということですが、よろしいでしょうか。是非そのようにしたいと思います。それから、次の出生率、第1子、第2子、第3子等の出生年齢の経過も必要ではないかというご意見であります、それについてはいかがで

しょうか。

(事務局) 当然そのようなご指摘のデータの積み重ねの上にこの数字が出てまいりますので、今後我々が地域別、それから具体別の対策を考えるときには、今のようなご指摘をいただいた上で、それぞれに対してどのような対応が必要なのかということが必要になってくると思いますので、そういったことも含めて分析をさせていただきます。それから、先ほど外向けの発信ばかりに気を向けるのではなくて、市民たちが、この地域の価値というものを実感すべきということは、まったくその通りで、先ほど課長もおっしゃられたとおり、もっと大きなウエイトを占めながら、謳っていく必要があるかと思えます。具体的に転入した段階で、どこへ何の手続きに行ったらよいのか、地元に戻ったときに、誰を頼ってきたらよいのか、そのようなことすらわからない、そういったことから、丁寧にやっつけようということで、そういったマニュアルをつくりつつあります。そこからまずはじまって、今度地元の人たちにつなげる中で、地元の人たちが受け入れやすい対象づくり、これについても当然考えていかなければいけないと思えますし、今年の秋には、すでに転入された方、伊那市に魅力を感じて転入された方について、集まっていただきます。この市民の方たちにお集まりいただく中で、何故、この人たちが伊那市に魅力を感じたのか、そういったことが、一般市民の人たちと一緒に考えていただきながら、その中で課題を示して、では我々は何を考えなければいけないのか、そういったことを事業として企画をしておりますので、そういった回数を増やししながら、地元の皆さんに地元の魅力を感じていただいて、そのことを市民の皆さん自らも、市内に発信したらみんな親切になると感じます。

(会長) では、そういった分析も含めて、お願い致します。

(委員) 私は経営者業界を代表して出席させていただいております高嶋と申します。よろしく願いいたします。実は今の内に対するPRのところの1つとして、①に相当するかと思います。教育の視点でお話をさせていただきたいのですが、実は経済界のほうから具体化となって、今、産学官と言いますか、教育界、行政を含めたキャリア教育といったところに起点をあてて、交流会ということで、実は先日の26日にそういった交流会という機会を設けました。これはどのようなことかと言いますと、今学校では、社会的自立を促すということで、中学生を対象に職場体験学習というものを非常に積極的に進めておまして、我々産業界のほうでもそれを受け入れて、まさにそういった社会的自立ができて、最終的には企業人、職業人として働いていただくということが、我々の1つの社会的な貢献につながるのではないかなといったところで、このような関係があるわけです。そこを我々としても雇用を創出していく、守っていくという関係もあるのですが、そういった体験をうまく活用して、キャリア教育ものに更に発展させようということで、それはどのようなことかと言いますと、子どもたちが伊那谷に育ってはいるのですが、かなりの率で進学をされます。それも県外のほうに進学をされて、そのまま戻ってきて、もちろん我々が雇用をつくっていかないといけないのですが、働く場を設けなければいけないのですが、学生が戻ってきて就職するということが非常に少ないです。そのまま就職してしまうということになるとい

うこともありまして、そこをここで生まれ育った子どもたちが、この伊那谷の魅力を感じ、そしてこういった企業が、いろいろな企業があるのだよということも知っていただき、そして将来働く場としてこの地を選んでもらうという、この循環をつくるということ。そのためには子どもたちに教育する先生たちに、よりこの伊那谷の良さを知っていただくということ。先生たちもやはりこの出身者ではなくて、やはり市外、ないしは他地域から赴任してきた先生がきて、また、数年で交代してしまうということがあるものですから、先生たちにもやはりそのようなことを理解していただいて、子どもたちに教育していただい。こういうかたちで、そのためには行政、教育委員会の方たちには非常に協力していただいて、今年2回目の交流会ができたのですが、そんなことで今取り組んでおります。このようなキャリア教育というところに視点をあてた施策といってもものもこの中に取り入れていただいて、今我々が取り組んでいる、いろいろなところで取り組んでいると思いますけれども、そこと連携してやっていただくことも必要なのかなというように感じました。

(会長) 今、そういったご意見がでました。

(事務局) 教育の視点、これは、この地方創生の考え方の中では、まずは郷土愛を行政として、おっしゃられたとおり、仮に首都圏で学ぶために出ていっても、戻ってくると、生まれ育った伊那市で暮らしたいという思いを、まず小さいうちから育てていくということが大事でありまして、教育委員会が主幹となりまして、このキャリア教育、経済界の皆さまにも大変協力いただく中で、重要な政策として進めておりますし、全国的に見ましても、総合教育というような魅力あるこの伊那市の自然を活用しての教育の方法や食育、木育なども取り組んでおりますし、またずっとここにいらっしゃるわけではないとおっしゃられたような先生方向けの伊那の各学校、或いは伊那の市の魅力をまず先生方に理解していただくためのそういった先生向けの教科書のようなものも、昨年度整備をいたしまして、各学校でそれをもとに、またそうしたことで学んだ先生たちが今度は子どもたちにその魅力を、自ら体感した魅力を野外教育等でフィードバックしていくような取り組みもはじまっております。今回、大きな3つに仕分けをしてお示しをいたしましたが、更にこの審議会の中でも議論をかけていただき、戦略に向けての審議にシフトしていくわけではありますが、大きな政策の柱の中に、この教育・子育て、伊那市の魅力を活用した、これはシティプロモーションにも十分活用できる分野でもありますので、そういったものもまた次回以降お示しをする中で、また具体的なご意見をいただければ大変ありがたいと思います。

(会長) ありがとうございます。大変貴重なありがたいご意見かなというように思います。たしかに、この3本の中にはその辺は謳っておりませんので、今後、謳えるかどうか是非検討をお願いしたいと思います。それから先ほど、シティプロモーションの話が出たのですが、この説明は資料説明はしていただけますか。

(事務局) 前回の審議会で示せばよかったのですが、一応伊那市では、一昨年度まずは総合的な人口増、これは重要な政策課題として捉えた中のシミュレーションもおこないつつ、具体的なプログラムとしてまとめた移住定住促進プログラムというものと、それから

今会長がおっしゃられましたけれども、伊那市の魅力をまず知ってもらおうということも、社会増のアプローチとしては必要という面で、シティプロモーション戦略については昨年度 11 月に策定をしたものでありますので、大変申し訳ないのですが、中身につきましては、お持ち帰りをいただきまして、またお目通しをいただき、今後具体的な総合戦略策定の中でも絡んでくる内容も多々ございますので、またこの審議の過程の中で質問いただければまた、そうした中でまた情報や認識を共有させていただければありがたいなと思います。

(会長) 総合戦略と同時に、このシティプロモーションの内容も中に入れていくということです。よろしいでしょうか。その他に何かご意見ありますでしょうか。

(委員) 私は旧高遠町出身なのですが、旧高遠町の政策の中心も常に過疎対策ということで話がありました。32 ページに 3 つの視点があるが、実現化するには非常に難しいものだと思います。今若者の、若年層の平均年収 200 万円以下の皆さんが、1,000 万、2,000 万という単位でいるという状況が、やはりどうしても結婚に結びつかない、子育てに結びつかない、一番の大きなところがそこにあるのではないかと思います。ですから、就職する場があるのはまだよいのですが、所得が上がらない中でどうしていくかという、どうしても人間はある程度の所得がないと、次の意欲がわいてこないということがあるようです。3 つの視点の 1 つ目の部分の中で、そういった部分で何ができるのか今日のところはよくわかりませんが、そこまで突っ込んでいかないと、若者の皆さんがこれからを考えると、とくにこれからの生活実態というものがあるのではないかなと思っておりますので、活かせるものがあれば中に入れていただきたいなと感じました。

(事務局) ただいまいただきましたご意見、たしかに総合戦略は先ほど K P I ということでおっしゃられましたけれども、今まで行政の政策をまとめた計画については、文言は非常にきれいだけれども、その中身としては、実生活ではどうなのかという部分もあると思いますが、今回は戦略でありますので、例えばご意見をいただきました①のところでは、国に準じて、雇用を満たしていくということで柱立てはしてありますが、たしかに、就職できればそれで生活が成り立つかということ、大多数の部分では非常に苦しい生活を送っているという実態もございますので、その辺はご提案をいただきましたとおり、戦略を具体的な時期を盛り込んでいく中で、目標設定も併せて、どういったことができるのか、そこは雇用に加えて、実際の生活を成り立たせうる、そういった視点での高い部分まで検討していきたいというように思っております。

(会長) 具体的にどういったかたちで載せるかは別にして、検討はしていくということです。たしかに大切な点だと思いますので、また戦略の中で現状をつかんでいただきたいと思います。その他にはよろしいでしょうか。この人口ビジョンを読ませていただいて、これは国のものに伊那市のものを少し合わせたようなところがあって、合わないところあるのですが、例えば、2 ページの将来展望のア、ウ、エあたりは、合わない気がするのですが、そんなことはないですか。

(事務局) この部分は説明を割愛させていただいてしまったのですが、基本的には国が示して



いる考え方を、そのまま参考的に入れている部分ですので、割愛してもよい部分かなと思いますし、逆にこれを会長がおっしゃられるとおりに、伊那市でどう考えるかというように置き換えられるような細工が必要かなと思っておりますので、その辺は検討させていただければと思います。

(会長) わかりました。ではそのようにお願いしたいと思います。

(委員) 先ほどビッグデータをつかって、という話があったのですが、例えば、今の伊那市の人口が増えるのはともかくとして、1,000人単位で減ったときに、どのような活力が削がれるのかというような、イメージがわくようなデータはつくれますか。たしかに、今までの資料の中に、業種や年齢などいろいろ出てくるのですが、例えば実際に今、6万何千人の中で1,000人が減ると減らないとでは、この伊那市にとってはどうなるかという、現状でどうなのかというようなシミュレーションができるような、イメージがわくようなデータはつくれますか。

(事務局) 例えば、69,000人が68,000人になったらどうなるかということは、なかなか微妙な差くらいしかわからないと思うのですが、我々が今目指している人口があります。それから社人研のほうから示されている人口があります。その差がもし目標値であれば、このような将来になると見渡せます。或いは、国のほうが今見込んでいる伊那市も57,000人になった場合にはこうなると、その10,000人の差についての差というのは分析は可能かなと思います。分析のほうもそのことによって、生産年齢人口がどれくらい違うかによって、税収がいくらになるかは無理かもしれませんが、そういった示しはできるのではないかと私は思いますので、1,000人単位でどうなのかということは。

(委員) 先ほども触れたのですが、過疎対策で一番気になったのは人口なのですが、ではどこに持っていくのが本当の意味で、シミュレーションすると数字はできるのですが、その人口が果たして将来どのような意味を持つのか、というところまでいくと、非常にそれは少ないより多いほうがよいだろうというレベルでいってしまいます。ですから、当然1,000人というのは1つの例なのですが、もう少し大きくして5,000人など、もう少し検討できるオーダーでよいと思うのですが、その時に、要は伊那市がどのような施策をするのかということが問題であって、何万人でとどめようというのが最終目標ではないと思うのですが、ただ、物事を考えていくときに、5,000人減ると減らないとでは、どれだけ違うのかなという、考える部分でのイメージがあると、シミュレーションだけではなくて、将来の人口は伊那市にとっては、規模からするとこれくらいの活力がある市で維持できればよいみたいなものが、人口からうまく推測できるような方法がシミュレーションできないのかと思ったものですから、できたら結構ですのでお願いします。

(事務局) 実はお示ししてごさいませんが、庁内内部的には、この人口減少に歯止めをかけるということはプログラムで、そのためにこのような事業をこれだけやっていくということと加えて、今委員がおっしゃられた視点にあてはまるかわかりませんが、もう減っていくものは減っていくものとして、2040年を見据えてこれくらいになるとすれば、

行政とすればサービスのあり方はどうあるべきか、それに合わせて地域づくりをどうすべきか、という議論をおこないましてまとめたものもございます。ただこれは、この数字をまだ人口予測の地域で示していないということで、今回これからご検討いただくのですが、なかなか刺激的な内容がありますので、住民に向けにはまだ公表しておりませんが、いずれにしろ細かいところまでは無理にしても、いやこうなると、こういった方向に進まざるを得ないというような考え方はやはりある程度出ていかざるを得ないところまできているのかなというようなものも今ございましたので、特にビッグデータを活用しましては、先ほど話しましたが、単位ほどの程度かは別としましても、例えばその人口になった場合に、実際の全国 2,800 市町村ある中での、実際の例なども参考にする、どのような現状にあるのかというようなこともリサーチをするなどすれば、ある程度イメージはわくのかなということがありますので、できるだけ資料にまとめられるものはまたこの会の中でも、情報共有ということで提供させていただき、参考にさせていただけるようにできるだけやっていきたいと思っております。

(会長) よろしいでしょうか。その他何かございますか。今日それぞれ皆さんから出されたご議論をまた参考にさせていただいて、少し内容等を見直していただくと、それでまたご提案ということでよろしいでしょうか。その他特に無ければ次に進ませていただきたいと思います。

### (3) アンケート調査の実施について

(会長) それでは(2)は以上とさせていただきます、先ほどの方針にもございましたけれども、アンケートについて説明をお願いいたします。

(事務局) (資料3に基づき事務局説明)

(会長) ありがとうございます。今アンケート調査についての説明をいただきましたけれども、アンケート調査の仕方について、何かご質問等ございますか。

(委員) 転出者の転出理由を調べると思うのですが、できれば前のページの関係のところ、転入者についても同じようなアンケートをいただいて、先ほど、秋にまた実施するということですが、ついではありますので、その中で、当然、よいこと、悪いこと出てくるものですから、この際一緒にやってしまったほうが話をするにもわかりやすいと思っております。

(事務局) 転入者ということは重要な視点ということで考えております。転入者につきましては、現在転入手続きにおいて、アンケートも実施しております。半年程今続けておまして、回収率はそんなに高くはありませんが、とったデータがありますので、そういったものをまたお示ししていければと思っております。

(委員) 転入直後ではなく、そこから少し時間が経った状態で、いろいろ出てきたものが知りたいです。転入時はもっとよいと思っていましたが、住んでみたら飛んでもないということもあります。せつかく来ても、地域のサポート体制がうまくなくて、その人が孤立して、悪い情報がたくさん入ってきて、やっぱりここは駄目だということにな

ってしまいます。そこら辺のところ、どんな前向きなサポートをしていったら、その人たちがより多く、印象よくもってもらって、場合によったらその知り合いが口伝で「私も」という方が出てくるかもしれないような方向に持っていく方法を考えていただきたい。

(事務局) それでは、転入される方についても、別たてでアンケートを実施していきたいと思っています。

(会長) アンケートを実施していただけるということですので、協力もしたいと思います。

(委員) どのくらい回収できるかということで、実はうちの議会の特別委員会も、みんなの意見を聞いてみようということで、考えたのは、商工会議所で新入社員の激励会があったのです。そのときにそこをお願いして書いていただいて、帰りに置いていってくださいますといたら、みんな置いていってくれたので回収してあります。あと、この子育てを、本当にやっている人の生の声を聞きたいということで、実は保育園のお母さんたちに、全部の保育園とはいかないですが、だいたいの地区を選んで今お願いをしています。あれは鞆に入れて連絡帳に入れておくと必ず回収できるのですね。今やっている最中でございまして、それが集計ができましたら、それも活用していただければ結構です。

(事務局) 大変ありがとうございます。ぜひ活用させていただきたいと思っています。また、加えて、今回アンケートということでご説明いたしましたのは、先ほどいただいたような、もっとこうしたほうがよいというようなご意見や、もっとこういった項目を抜いたほうがよいのではないかとというようなご意見もあったらいただきたいということと、またこのアンケートのみならず、部長からもお話がありましたが、さまざまな団体等と懇談をする機会などございますし、そういったものところで伺った意見や或いはこちらから積極的に懇談をしたいということで、関係団体、或いはそういった移住者の方など、いくつか予定しておりますので、そういったものも、どのような意見が出たのか、というようなことはまた集計をして、このアンケートに加えて、懇談した結果などもお繋ぎをしたいと考えております。

(会長) よろしくお願ひしたいと思います。今ご説明いただいたこのアンケートの中で、もう少しこんなものを入れたほうがよいなどありますか。

(委員) 今後の結婚願望についてということは、未婚の人を対象にしていると思うのですが、結婚することへの利点について、これは結婚した人からのご意見になるのでしょうか。未婚の人も理想とするものがあると思います。実は結婚相談員をしていて、結構 40 代の男性の人たちも多いし、30 代、40 代の農家の方など、そのような人たちがいるところが多いのですが、女性がなかなか少なくてバランスが悪いなど、逆をみてもなかなか結びつかないことが多いです。どのような理想的な結婚をしたいかなど、未婚の人たちが夢を持てるようなご意見が取り入れられたらと思います。

(会長) ありがとうございます。

(事務局) 質問のありました結婚願望について、でございますが、これは未婚の方を対象にしたいと思っております。また結婚したことへの利点につきましては、結婚された方、

それからしなかったそれぞれの方に聞けたらよいなと考えております。

(会長) 概要ですので、まだ詰まっていなと思うのですが、例えば聞き方についても、このような聞き方でよいのか、そのへんのところを実際にまだ詰まっていなと思いますけれども、6月中旬にもう実施する予定でありますので、少し急いでいただいて、データとして使えるように是非お願いしたいと思ひます。

(委員) このアンケートの中で、生活についてという項目で、少し付け加えていただきたいと思ひのですが、実は教育関係で、学校で地元と何か協力してやっってくださいという話があるのですが、実際となり組に入っていないなどというケースがあつて、結局地元と連携がとれない家庭が多いということもありますので、地域と一緒になつてやっっていくことの中では、となり組に加入しているか、していないかというところも検証されたほうがよろしいのではないかと、生活について、中で少し付け加えていただいたほうがよろしいのではないかと、思ひておりますがいかがでしょうか。

(会長) どうでしょうか。たしかにそのとおりで思ひますが。

(事務局) ただいいただいた向きで検討させていただきますと思ひます。

(会長) ということは、入れていく方向で検討させていただくということによろしいでしょうか。

(事務局) 実際の用紙ができあがった段階で、皆さんに送らせていただいて、その時点で改めて意見をいただいた上で、完成品をつくっていきたく思ひております。ご協力お願いいたします。

(会長) 委員の皆さんには本当に真剣に考えていただくということだと思ひますので、よろしくお願ひしたいと思ひます。その他に何かございますか。

(委員) 今のアンケートですが、地元移住の希望に対する調査の中でも、結婚についてなどという項目がありますが、これはどのようなことですか。それからもう1つ、結婚することへの利点についてということは、何かわけがわからないです。だから、アンケートを実際に実施する文言をつくっていただいて、それを送ってくださらないと、イメージがわかりません。

(会長) 概要だけではわかりにくいなという気がします。できれば、今おっしゃったように、送っていただければいいかと思ひます。大変だと思ひますがよろしくお願ひしたいと思ひます。そのほかに何かございますか。

(委員) 地元移住の希望に関する調査ですが、この調査をすることがきっかけで、地元に移住したいと思ひる方も出てくる可能性があるため、例えば引き続き伊那市から情報が定期的にほしい人は、名前、住所を記名してくださいなど、全部多分無記名で出していると思ひるので、もしかしたら連れてこられる人との繁栄戦略がなくなってしまうともったいないので、記名ができるようにして引き続き情報がほしい人はということも入れておくともいいかもしれません。

(事務局) そのようにさせていただきます。

(委員) アンケート調査の目的は記載されるわけですね。

(事務局) アンケートにあたって、こういったことですよという説明をする中で、アンケートにご協力いただくというかたちでさせていただきます。

(委員) 受ける側として、やはり協力というスタンスがどうしても必要だと思います。そのときにこれを答えることの意義というものをしっかりと理解してもらおうようなかたちにさせていただくと、回収率も高まるかなと思いますので、目的のところを少し重視していただきたいです。

(会長) アンケートについては、事前にどのような内容なのかを含めたものを記載して、皆さんの意見を聞かせていただくということですので、よろしくお願ひしたいと思ひます。その他にございますか。よろしいでしょうか。それでは(3)のアンケートについては以上とさせていただきます。

#### (4) その他

(会長) (4) その他について何かありますか。

(事務局) それでは冒頭に申しあげましたけれども、ただいま資料の地区別について、事務局のほうから今後の計画について話をさせていただきますので、退席をお願いします。  
(地区別について説明)

(会長) ありがとうございます。質問があればお聞きしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。これで、(4)まで終了したということによろしいでしょうか。本日の議題は以上ですが、全体を通して何かご意見、ご質問ございましたらお聞きしたいと思ひますが、よろしいでしょうか。

(委員) 私は連合を代表してこの会に参加させていただいているものですので、今国の施策ということで気になるものがあるのですが、この地方創生も国の施策で、各市町村までできているわけですが、先ほど少し話の中でも出てきましたが、要は働く場所や賃金の関係、この辺が国の今の法律の施策と相反している内容でこの地方創生がきているのかなということで、この場で意見を出していくということではないかもしれませんが、要は、両方とも国の施策なのですが、国が間違っている方向でいっているのではないかなというところは、この会で検証はしてもよいのかどうかはわかりませんが、例えば、収入1,000万円以上は残業代が出ない、派遣労働者は増やしていくということは、新しい法律で検討されているのは、3年以上続けて仕事ができない、また派遣の範囲が広がるということで、3年経ったら他の仕事をしなければいけないとなると、定住ということは考えられなくなってくるということになりますので、工業の関係から含めると、新しい法律がこの地方創生にそぐわない、国は違う方向でまったく違うことをやっているというところがみられまして、労働団体から見ますと、非常にそのへんが、やっているかはまったくまちまちで、いけないのではないかなという感じをもちます。やはり地方で一生懸命このように会を開いてやっていきたいと思いますところ、国が水を差すような施策を出すことに対して提言していくということも1つ必要なのかなという気がするのですけれども、皆さまも含めていかなものかと思ひまして、ひと言申し上げました。

(会長) ご意見として聞いておけばよいですか。お答えいただけますか。

(事務局) ありがとうございます。現在国が進めている政策の中で、個々に議論していますと、それぞれの皆さんのお考えが違うと思いますので、前に進まないと思います。地方創生に関するものについては、今回は国策で進めておりますけれども、唯今のご意見を議論していきますと、伊那市がどのようにあるべきかと言う議論に進まないと思いますので、今回は国に沿った企画を立てさせていただくと、その中で今の国策として、これは地方が便利になるためには、どうしても国に伝えたいというものについては、別の機会を通じて上にあげるなど、そういったことは考えておりますので、そういった議論で進めていただければありがたいと思います。

(会長) よろしいでしょうか。それでは特に無いようでありますので、以上とさせていただきますたいと思います。活発にご意見をいただきましてありがとうございました。それでは進行を事務局にお戻しいたします。

#### 4 その他

(事務局) 事務局からお知らせです。本日の審議ありがとうございました。本日の会議録及び配布資料につきましては、伊那市の公式ホームページに掲載させていただきますので、ご承知いただければと思います。また次回の審議会の日程であります、6月29日月曜日、午前9時半から2時間程度を予定しておりますので、よろしくお願ひいたします。

(事務局) それでは最後に酒井副会長お願いします。

(副会長) 本日はありがとうございました。人口ビジョンの素々案がおぼろげながら見えて参りました。今後アンケートを実施していただいて、またアドバイスをいただきながら、次回はより具体的な戦略について話していければよいなと思っております。今日は本当にお疲れ様でした。ありがとうございました。

#### 5 閉会